

令和7年度 学校経営方針 江戸川区立南葛西第二小学校 校長 川浦孝彦				
～魅力ある学校づくりを目指して～				
児童にとっての魅力	自らの成長を自覚できたとき	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の目的意識を大切にし、主体的、対話的で深い学びを実現する授業を目指す。</li> <li>・個別最適な学び及び協働的な学びを重視する。</li> <li>・系統性、既習事項や生活体験を重視して、意図的、計画的に指導する。</li> </ul>	笑顔
		豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性を認め、自分とともに他人を大切にする学級集団を形成する。</li> <li>・社会の一員であることを自覚と規範意識を育成する。</li> <li>・信頼関係を築き、「人・言葉・心」がつながる教育活動を推進する。</li> </ul>	元気
教師にとっての魅力	児童の成長に手ごたえを感じたとき	能力開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークライフバランスの視点から、「今、組織の中で、何をすべきか。」を意識する。</li> <li>・課題を明確にし、学期ごとの現状分析と目標設定を重視して、学級、専科経営を進める。</li> <li>・授業力、生活指導力の向上を目指し、研究、研修活動を充実させる。</li> </ul>	笑顔
		組織力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「さらによくするために」という共通目標に向かって、提案型分掌運営を推進する。</li> <li>・児童に関わる情報共有に努め、教育活動の活性化、指導の充実を目指す。</li> <li>・「抱え込み」をなくし、チームによる迅速かつ誠実な対応をする。</li> </ul>	
保護者の魅力	わが子の成長を実感できたとき	理解、連携、協力、強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育情報へのアンテナを高くして、情報の編集、発信の技能習得に努める。</li> <li>・教育活動のPR等、広報活動（学年だより、ホームページ等）を積極的に行う。</li> </ul>	笑顔
地域の魅力	学校との結びつきを実感したとき		<ul style="list-style-type: none"> <li>・意図的、計画的に学校公開及び保護者会、個人面談等を実施する。</li> <li>・地域と学校の双方向の関わりを具体化する。</li> </ul>	
			教育目標	自立と貢献

## 令和7年度 重点目標

### 「南二小よい子のきまり」より「めあてをもって根気強く、本気で取り組む」

～根気強さ、ねばり強さを育てるために～

- 自分や周りの人の安全を、よく考えて行動する。
- 時間を守る。
- 持ち物やクラスの物を整理整頓し、気持ちよく過ごす。
- 気持ちのよいあいさつをする。
- 思いやりの心で周りの人にやさしく接する。
  
- **めあてをもって根気強く、本気で取り組む。**
- 休み時間は、外で元気に遊ぶ。

#### 1. 目標を作らせる

続けられた経験自体が自信につながる。(継続は力なり)

「毎朝、お花に水をあげる。」「1日1ページ、本を読む。」など。

突然大きな目標を作って取り組むのは難しいので、まずは「次もやってみよう」と思える小さな目標を設定する。「今日もできた。明日も頑張ろう！」

#### 2. 達成感を味わわせる

達成感が子どもにわかりやすいように、最初は形に残るようなものに取り組んで「できた！」という喜びを味わわせる。

例えば、少し集中力を必要とする折り紙や算数パズル

目で見て確認できるので、ゴールもわかりやすく、達成感を感じやすい。

子どもに合ったものを選べるので、ステップアップしやすいのも魅力です。

#### 3. 集中できる環境をつくる

子どもが集中して何かに取り組んでいると、ついつい声を掛けたいくなる。

「何してるの?」「すごいじゃない!」こんな風に声を掛けてしまうと、残念ながら子どもの集中力は途切れてしまう。「途中で投げ出してしまった」「続きを再開するのがめんどろになってしまった」とならないように、子どもが集中しているときはそっとしておく。

時間をたっぷり設けたり、集中しやすい静かな空間を提供する。

#### 4. うまくいかないときはフォローする

失敗したり行き詰まってしまったときに、一人で乗り越えるのがまだまだ難しいので、どう声をかけるか、どうフォローするかがカギとなる。

「大丈夫、大丈夫！」「もう一度やってみたら、うまくいくかもしれないよ？」「こっちのやり方はどうかな？」と前向きな声掛け。気分を切り替え、もう一度チャレンジしたい気持ちを持たせる。

諦めそうなときや、飽きてしまったときは「一緒にやってみようか！」と誘うのも効果的。

#### 5. 失敗してもほめる

うまくいったときはもちろん、うまくいかなかったときも、できたところまで、取り組んだプロセスをほめる。大人の支えがあることを感じ、「失敗しても大丈夫」という心構えを持たせることができる。レジリエンス(回復力・適応する能力、または、精神的な強さ)を育てることができる。

## いい我慢と悪い我慢

一般的に「我慢する」は、つらい環境や状況に耐える、理不尽なことがあってもグッと堪える、というように、ネガティブな意味で使われることが多い。大人になるとそのような場面に直面することも多いので、ついつい子どもにも「納得できなくても、我慢できるようになってほしい」と思ってしまう。

子どものうちに伸ばしたい「忍耐力」は、このように抑圧されて仕方なくする「悪い我慢」ではなく、自分のために自発的に選び取る「いい我慢」であることが前提。

例えば、列ができているブランコに「順番を待って乗ろう」と考えて並ぶ、お菓子を食べてくても「もうすぐご飯だから」と言われたから待つ、というように目的のために自分で進んでする我慢が「いい我慢」にあたります。

このような「いい我慢」は、発展すると「難しいけれど、もう少し頑張ってみよう」「時間はかかりそうだけど、続けてやってみよう」といったような目標を達成するために長い視点で物事を見通せる「忍耐力」につながります。

子どものうちから「悪い我慢」を習慣づけてしまうと、自己主張が出来なくなったり、困難な状況でも「もうこのままでいいや」と諦め癖が出たりする。

学校や社会に出てから、理不尽な圧力に対抗する気持ちがなくなると、いじめやパワハラといった事態につながりかねないので、注意が必要。

自分を犠牲にするように強制された「悪い我慢」ではなく、自分の目標達成のために前向きにする「いい我慢」を伸ばせるように。

## 根気強さのメリット

### 1. 自己肯定感が育まれる

忍耐力がある子どもは、達成できるまで粘り強く取り組めるので、より多くの「できた！」を経験できる。「頑張って取り組んだら達成できた」という経験は自信につながり、この自信の積み重ねによって、ありのままの自分を大切にと思える「自己肯定感」が育まれる。

自信と自己肯定感をもとに「もっと挑戦してみよう！」という気持ちが芽生え、子どものチャレンジと達成が良いサイクルの中でより発展する。

一方、忍耐力がなくすぐに投げ出してしまうと「またできなかった」とネガティブな感情だけが残り、「自分は何をやってもダメなんだ」という自己否定的な感覚に陥る。

「めんどくさいからやらない」を繰り返していることも、「続けられない自分」への否定的な自己イメージにつながる。

### 2. 失敗に強くなる

何かに取り組むときにつきものなのが、「失敗」。

取り組んでいることが必ずしもいい結果につながるばかりではないので、多少の失敗に対してめげない心・失敗への耐性は、子どものうちに身につけさせたい。

忍耐力があると、物事を達成するまでの道のりを長期的な視点で考えられるようになる。

結果はすぐに得られるわけではないことを体験的に知っているので、壁に当たったときもそれを「結果」と捉えず、ひとつの「通過点」と考えることができる。

失敗を恐れて尻込みすることなく、「ダメだったら他の方法でチャレンジしてみよう」と建設的に考えて取り組めるので、結果的に「できた！」の経験につながるチャンスとなる。

### 3. 前向きな気持ちで努力をすることができる

「ねばり強く」と聞くと、つらいことに耐えるようなイメージがあるが、目標を持って前向きに取り組んでいるとき、必ずしもネガティブな感情に支配されるばかりではない。

大人にも言えるが、人に強いられて続ける我慢と、自主的に行う我慢は、取り組んでいるときの気持ちも違うものです。

とくに、子どものうちに忍耐力をつけておくと、これから先、年齢が上がって勉強やスポーツなどに取り組むときにも大きな強みとなる。頑張らなければならないとき・気が進まなくても取り組まなければならないときは、必ずやってくる。

結果として、「できた！」の経験を積み重ねることにつながります。